

特定非営利活動法人 東京YWCA ヒューマンサービスサポートセンター 会報

見守り、支え、伝えあう



私達は、福祉・介護の仕事のゆたかさを広める活動を推進します。

Contents (目次)

2・3 **MAIN TOPICS** 理事会報告

上半期の動きとこれからについて&新メンバー紹介

9月の理事会にて補正予算や事務局体制について話し合いました。事務局には、新たに2名のメンバーが増えました

4・5 会員さんの職場にお邪魔しました♪

第2回目は、当NPOの第三者評価者でもある谷部順子さんが所長を務める、千葉市美浜区にある身体障害者福祉センターB型「ふれあいの家」をご紹介します

6 施設見学ご案内・レポート

専門学校時代から長くお世話になっている公益財団法人 愛恵福祉支援財団様より業務委託を請け、小規模多機能型居宅介護施設見学のコーディネートを担当いたしました。その様子をご紹介します

7 会員交流ひろば「Salon de YY」(サロン わいわい)

会員の相互交流のための自由な掲示板です。今回は仲真葉^{なかもよう}さんによる「^{こうげん}膠原病」闘病記です

8 Information

会員募集中です！～会費のお振込みをお願いいたします～

2013年10月10日現在 93名 (正会員77名、賛助会員10名、団体会員6団体)

多くの方のご協力により、前回から5名増えました。税制優遇の為に正会員100名、賛助会員20名、団体会員10名を目標としています。ご協力をお願いいたします。2014年度より払込取扱票(赤い振込用紙)を利用させていただいた場合は領収書の発行を割愛させていただくことになりました。ご了承のほどよろしくお願いいたします。現金でのお振込の場合は従来どおり発行いたします。

MAIN TOPICS



理事会報告

5月発行 NO.6 の会報にて 2013 年度の予算書をご覧いただいておりますが、9月の理事会にて補正予算を組むことが承認されました。これからの事務局体制など、どのように動いていくのかお伝えします。（尚、会員の方には補正予算の表を添付しております）

処暑の季節を迎えているのに、なんだか暑さがおさまらない 9月5日、理事の皆様には、お仕事の後事務所にお集まりいただいて理事会が開催されました。本多敏子理事の欠席の外は皆さんがご出席くださいました。

主な議題は「事務局体制」と「年度前半の活動を踏まえての補正予算」についてでした。まず事務局体制については、主に石井須美子事務局長の勤務時間や給与について、忌憚のない話し合いをしました。事務局長の働きは NPO の運営の要ですし、NPO がここまでやって来られたのも、その働きに負うことが大きいことは皆が良く知っているところです。しかし財政的にはそれに見合うだけの給与を出すことができないのが実情です。それでもこの NPO をつぶさないでやり続けるためにはどうしたらよいか、が理事会にとっての大きな悩みであり、課題です。今回はご家庭の事情もあって勤務時間を少なくして、財政的にも可能な給与を出すことにしました。事務局の専任は一人だけで、その他は YWCA の関係者や卒業生などが、持てる時間と能力で様々なご協力をしてくださりながら運営しています。急に仕事を拡大することは難しいので、研修にあたって多くの講師にもご協力をいただき今後、新しい講師陣の育成も考えながら、NPO としては着実に力をつけて現場のニーズにこたえられるようにしていきたいと話し合いました。

この方針によって補正予算がつくられました。今年度の予算の執行に当たっては 50 万円ある借入金を返済することを第一に考えていくことにしました。また、講師給の支給の仕方として、これまでは所得税分を NPO が負担していましたが今後は所得税・復興特別所得税は講師給内から差し引きとさせていただくことが議されて承認されました。

何時も NPO の運営について、熱心にそして愛情を持って議論をしていただける理事や会員の皆様に感謝しています。

代表理事 遠藤 久江

上半期の動きとこれからについて

2013 年度の「講師派遣研修」と「第三者評価事業」を中心に、ご報告いたします。

<1. 講師派遣研修の現状と課題>

① 口コミで社協の研修依頼が増えてきた

北区社会福祉協議会（以下、北区社協）の有償ボランティア研修（友愛ホームサービススタッフ養成研修）が 3 年目を迎え信頼を得ています。これまでの北区社協研修 3 回に加えて、新規に講座 1 回、北区シルバー人材センターの研修 2 回・目黒区社協研修 2 回、荒川区社協研修 1 回の研修につながりました。社協の研修費は通常の研修費より低く設定しているために、収益には直接つながりませんが、高齢社会を支える有償ボランティアの方々の研修を担えることは、NPO としての役割を果たすこととなります。また社協とのつながりを築いていくことは、今後の研修事業展開に大きな力となると考えています。

② 大規模法人研修への取り組み

正規雇用労働者育成支援奨励金を活用した新規事業所（2 か所）の契約に加え、大規模法人が新たに取り組む「法人研修計画」を共同で作成し、この 2 月からさっそく開始します。法人研修のモデルケースとなる重要

な研修と位置づけ、全力で取り組んでまいります。

③今後の展開（講師育成と研修プログラムの開発）

これまで実績を積み上げてきた「講師派遣研修」を展開していくために、事業所の現状を分析し、それぞれの法人・事業所と協力し長期・短期目標を見据えた研修計画の構築と具体的な展開を進めていくことが必要です。そのため新たに講師となる方の発掘と卒業生を中心とした講師の育成、研修プログラムの開発が求められております。この計画を進めるために、これまでかかわってくださった講師の方々の協力が不可欠です。ご協力と、情報提供をよろしくお願いいたします。

<2. 東京都福祉サービス第三者評価事業>

今年度は、特養2カ所・短期1カ所・通所2カ所合計5事業所と、単独の利用者調査で特養・短期それぞれ1カ所の契約が成立しています。収益としてはこの事業で安定的な収入を確保したいところですが、焦らずに評価者自身が学び、納得できるような評価事業を目指します。昨年評価者研修を終了した大庭さん・千田さん・谷部さん・柴田さん4名も頑張ってくれています。今年度は新たに佐藤香織さんが評価者となるべく研修中です。事業所の目指す価値の実現をめざし利用者の声を届け、職員が生き生き働ける事業所となるよう、第三者評価を受けて良かったと思ってもらえるような評価活動ができるように努力していきます。

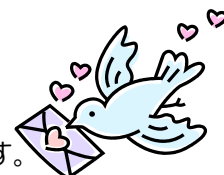
<3. その他の動き>

実習指導者講習会は、集客率の点から今年度1月～2月の1回開催とし受講者を募集しております。定員には十分余裕がありますので、皆様からのご紹介をぜひお願いします。

最後に理事会での決定事項をご報告します。

① 決算の時期を考慮し、会員総会の実施時期を従来の4月から6月に変更します。

② 会報発行を総会後の日時に合わせて、従来の5・11月から6月と12月に変更します。



事務局長 石井 須美子

=====

新しく仲間が増えました

新しく来てくださることになった2名をご紹介します

おおば ゆき
大庭 幸さん 総務担当 ジュニアコース 19回生



卒業後、福祉とは違う分野で公務員として勤務されておりました。子育てやご家族を大切に生活され、落ちついてテキパキ行動される魅力的な方です

東京YWCA 専門学校 社会福祉科を卒業後、長らく事務職に携わっていましたがこのたび古巣のYWCAでお世話になることになりました。お世話になった方々のお顔を久しぶりに拝見でき、懐かしくうれしい思いです。少しでもお役にたてますよう、楽しくがんばっていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

なかま よう
仲真 葉さん 総務担当 ケアワークコース 13回生



やんちゃな学生時代の印象とは打って変わり、コツコツとまじめに仕事をこなす姿が見られます。P7「Salon de YY」のコーナーに膠原病について寄稿して下さっています。

東京YWCA 専門学校ケアワークコースを2004年に卒業しました。卒業後は沖縄で祖母と暮らしながら特養に勤め、その後東京でデイサービスも経験しました。数年前より体調を崩し自宅療養をしていましたが、少しでも社会に出たいという思いから、7月よりこちらで働かせて頂いています。がんばりますので、よろしくお願いいたします(^_^)♪

ふれあいの家 見学見開き

ふれあいの家 見学 見開き



小規模多機能型居宅介護施設に行ってきました

7・10月の2回に渡り、(公財) 愛恵福祉支援財団主催の国内研修が行われました。訪問先は埼玉県新座市「NPO 法人 暮らしネット・えん」様、神奈川県川崎市「NPO 法人 楽」様です。当NPOでも講師などでもご活躍いただいている新田和子さんと共に、寺内真由美(ケアワークコース8回生)がご案内してきました。

小規模多機能型居宅介護施設は、高齢者の皆さんが住み慣れた地域で、安心して継続した生活をしていけるよう、ひとつの事業所を利用して、「通い(デイサービス)」、「訪問(見守りや訪問介護)」、「泊まり(ショートステイ)」を必要に合わせ組み合わせていく仕組みのことで、費用は定額制。ただ残念なことに社会的に周知が不十分なためサービスの理解が進んでおらず、利用者の生活を通して地域の中に創り上げているのが現状です。

「定額制なのだから」と深夜や緊急の泊まりが多いのかと思いきや「深夜の緊急の訪問はあまりない。日頃から、通いや訪問を丁寧に重ねていくことで気持ちも落ち着き、家族も安心していられるからではないか」という話や、地域の中で食事会を重ねるなど交流を深める中で次第に信頼関係ができてきたこと、職員が辞めないのは「小規模多機能ならではの仕事のおもしろさ」ということ、都会の中の施設であり家賃などコスト面の悩みなど、オープンに語っていただいたひと時でした。

また、高齢者が共同で生活をしている「グループリビング えん」に実際に入居している方からは「介護サービスを使っても、自分の意見をきちんと言う、ここで亡くなっていくことを応援してくれる関係作り、ここでどういう暮らしをしていきたいのかしないか、が大切である」とうかがう機会もありました。

研修後のアンケート結果から、皆さん満足してくださった様子がわかりホッとしています。(詳細の報告書をご覧ください) 事務局にあります)

小規模多機能型居宅介護施設関連でいうと、当NPOの理事でもある西岡 修さんが施設長を務める社会福祉法人 白十字会では、9月1日「白十字あきつの里」を開所しました。小規模多機能型居宅介護と認知症対応型共同生活介護が併設され、一つ屋根の下でつながった建物の間には「地域交流のために自由に使ってほしい」と光が明るく差し込むスペースが用意されていました。内覧会では地域の方が多数集まり、関心の高さをうかがわせています。

小規模多機能型居宅介護のサービス計画作成担当者の蛸原まゆみさん(ジュニアコース19回生)は、「高齢になって介護が必要になっても、介護されるために生きるのではなく、その人の人生を高めるように本当のケアとは何か探りつつ、これまで生活してきた地域のなかでの暮らしを継続またはとりもどせるように、管理者はじめ、みんなで実現していきたい」と語ってくださいました。



キッチンを案内してくれる蛸原さん

▼書籍案内 小規模多機能型居宅介護についてもっと知りたいという方は、こちらがお勧めです。

認知症や一人暮らしを支える在宅ケア「小規模多機能」 土本有理子 著 岩波書店 2010.8 発行 ¥1,800

サロン ド わいわい
Salon de Y Y

会員同志の相互交流の場として、掲示板を設けました。同窓会の告知、サークル活動の紹介、悩み事相談など皆さんからのお便りをお待ちしています。

「新しい仲間が増えました」のコーナーで紹介した仲真 葉さんは、前向きで聡明な女性です。膠原病のため、食事制限など生活に様々な規制がある中、病気をしたからこそ得られた新たな価値や人との出会いの中で、彼女らしく生活を続けています。彼女が活き活きと社会の中で活躍していくために一緒に仕事ができることは、私たちにとっても大きな喜びです。共に仕事をするようになり、それまで知識として「わかったつもりになっていた」、病^{やまい}について、身近な人から実際に話を聞いてみることの大切さを知りました。障がいや老化、どんな病であっても周囲からのちょっとしたサポートや配慮があれば社会に参加していくことは可能です。このレポートから皆さんはどんなことを感じますか。

「8：2」～病人デビューしたんだよ(^皿^*)～

私は元気な子供でした。自分が病気をするなんて思ったこともありませんでした。何も分からない私は「病気で出来ない」という言葉を聞くと「何で？」と聞き返すことが何度もありました。でもその度、周りの大人達に「病気の事は皆言いたくないんだから聞くもんじゃない」と言われ、いつもそれを疑問に思いながらも、そういうもんなのかと今まで過ごしてきました。

そんな私が体調を崩したのは23歳になった頃です。食後や空腹時の酷い目眩や倦怠感に悩まされるようになり、原因は低血糖だということがわかりました。更に原因不明の高熱を繰り返すようになり、この原因は膠原病だとわかりました。低血糖症状が出てから膠原病がわかるまで約3年、初めて病気がわからない事に対する不安な気持ちを感じながら生活しました。

病気をしてからそれをきっかけに友達ができるようになりました。友達と話していて気付いた事があります。意外と皆、病気の事を話すのは嫌ではないということです。むしろ“知ってもらいたい”と思っている人が多いということ。それでも健康な人達の前で病気の事をなかなか話せないのは、周りが自分を傷つけない様に気遣うあまり言葉に詰まってしまうからなんです。自分のせいでその場の空気が重くなってしまふことを気にしている友達が沢山います。気になる事はもっと気軽に「これ出来る?」「何だったら大丈夫?」と話しかけてもらえれば答えやすいという声もありました。

私は今まで病気の事を聞かれて嫌だったことは一度もありません。でももし今後言いたくないことを聞かれたとしたら、私はこう考えます。“8割の知ってほしいこと”と“2割の言いたくないこと”この2割の言いたくない事の為に、8割の知ってほしい事を伝えられずにいるのは辛い…と。

例えば足が悪く、それが見た目で見える人は、自然と周りが歩幅を合わせてくれることもあるでしょう。でも見た目ではわからない私の様な内部疾患がある人は、いくら歩くのが辛くても、それを自分で伝えなければ歩幅を合わせてもらうのは難しいのです。何でわかってももらえないんだらうと相手を悪く思ったこともありましたが、それは間違いでした。自分が健康だった頃、病気の人の気持ちをなかなか理解できなかったことを考えたら、自分が病気になった今、自分からどんどん伝えていかなくてはいけないと思いました。周りの人達に病気のことを知ってもらふことがこんなに心強いなんて、病気をして初めて気が付きました。膠原病の治療を始めて20ヶ月が経ち、まだまだ病気と上手く付き合っていく方法が見つからないけど、どうせ治らないなら、毎日泣くより笑って過ごしていきたくて(≧▽≦)／ と思っています。

仲真 葉

Information 会員の輪を広げて支えて下さい!

実習指導者講習会のお知らせ



現在 14 名。まだ受け付けております。開催は 1 月 22 日、2 月 1・5・15 日の 4 日間、場所は駒込駅東口徒歩 2 分の愛恵ビル 3 階 B です。費用は 25,000 円。詳細はホームページ。

ご寄付いただいた方のお名前です。ありがとうございます。(2013 年 6 月～10 月現在)

新田和子・蛸原まゆみ・加藤きく子・高島佳子・田口美穂・中村道子・原田千恵・日向野明子・根本博子・小池恵子・笹尾正乃 11 名。誠に勝手ながら、敬称と金額は省略させていただいております。ご了承ください※万が一、お名前の漏れている方がいらっしゃった場合はお知らせください。

会費振込みをお願いいたします。

年会費

正会員 3,000 円/年

賛助会員 一口 10,000 円/年 団体会員 一口 20,000 円/年

会費振込先

(ゆうちょ銀行と東京三菱UFJ銀行の二箇所あります)

◆株式会社 ゆうちょ銀行 記号 10170 番号 80995501

※ゆうちょ銀行の口座からお振込みの場合、手数料無料となります。

◆東京三菱UFJ銀行 神田支店 口座番号 普通預金0138637

会費振込先 2 箇所とも口座名義は共通です

口座名義

特定非営利活動法人 東京 YWCA ヒューマンサービスサポートセンター 代表理事 遠藤久江

会費の納入は
年内のうちに
お願いします

皆様からの会費によって、活動が支えられています。会費納入がお済でない方、是非手続きを!!
お願いします。



尚、P1 でもお知らせしておりますように、2014 年度以降払込取扱票(赤い振込用紙)を利用させていただいた場合は領収書の発行を割愛させていただくことになりました。ご了承のほどよろしくお願いいたします。

編集人のつばやき♡

「自分の使命を知り目的を達成する」ということの重大さを実感するようになりました。迷うとき、決めるとき、進むとき、NPO の使命を果たしてゆけるように力を合わせていきたい。応援してくださいね

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台一丁目8番11号 東京YWCA会館2階216

TEL・FAX 03-6273-7134 E-Mail: info@ywca-hssc.jp ホームページ: <http://ywca-hssc.jp/>

発行人: 石井須美子 編集人: 蛸原まゆみ・^{おおばゆき}大庭幸・^{なかまよう}仲真葉・寺内真由美 Special Thanks 寺内靖裕

2013 年 12 月 27 日～2014 年 1 月 5 日まで冬期休暇のお休みをいただきます。

急用の方は、NPO 携帯電話までご連絡ください ☎070-5586-8957

次回発行は 6 月予定です。(会報はホームページからも見られます)